

ドムシー男爵旧蔵のルドン作品

安井裕雄

序

フランスのブルゴーニュ地方に居を構えていたロベール・ド・ドムシー男爵（Robert-Joseph-Bénigne de Denesvre de Domecy, 1862-1946）は、ボルドー生まれの画家オディロン・ルドン（Odilon Redon, 1840-1916）の重要な蒐集家のひとりである。男爵が画家と知り合ったのは、後にルドンの石版画の総目録を編集し、画家の遺稿を筆写した評論家のアンドレ・メレリオ（André Mellerio, 1862-1943）を介してのことであったというⁱ。ドムシー男爵が、父である先代の男爵が1866年に建てた城館の食堂内の装飾をルドンに委ねたのは、1900年のことと思われるⁱⁱ。小さなサイズの木炭画やパステル画を主に制作してきたルドンにとって、最初の本格的な装飾画である。

画家と蒐集家の出会いを仲介したメレリオは、後に画家の未亡人の許しを得て、画家が遺した資料を書き写した。現在シカゴのアート・インスティテュートに保管されているこの筆写は、ルドンが遺した情報を最も正確に伝えており、1994年から翌年にかけてシカゴほかで開催されたルドン展の典拠となったⁱⁱⁱ。メレリオ・ペーパーズと呼ばれるこの筆写の存在は、相前後して上梓されたウイルデンスタインによる絵画作品総目録の刊行中に明らかになったことから、作品総目録にはこの筆写にもとづいた補記が施されている^{iv}。2011年には、パリのグラン・パレとモンペリエのファブル美術館でルドン展が開催され、これを機にルドンの作品管理記録簿である「出納帳」（リーヴル・ド・レゾン）が、展覧会図録に付随するCD ロムとして刊行された^v。シカゴのメレリオ・ペーパーズにもこの「出納帳」は含まれていたのだが、CD ロム版はさらに厳密な翻刻を経て刊行されている。

ドムシー男爵は、ルドン作品を数多く購入し、画業の転回点に位置する装飾画を発注した重要な顧客であるが、「出納帳」を除くと、男爵に関する情報はごくわずかしかなかった^{vi}。男爵の蒐集品を跡付けることは、ルドンの画業をたどるうえでは不可欠だが、その全貌さえも長い間不確かなままだった。本稿の目的は、既知の資料を新出の情報により見直すことで、男爵の蒐集品をできるだけ正確に跡付け、男爵の嗜好を分析することにある。男爵の蒐集品の調査段階では、CD ロム版の「出納帳」の情報を整理して一覧にしたことから、理解の一助とすべく本稿に付した^{vii}。「出納帳」には1910年までしか記載されておらず、一覧の作成にあたっては、ウイルデンスタインの絵画作品総目録^{viii}なども参照している。この一覧表によって、ドムシー男爵によるルドン作品購入の様子、つまり男爵と画家が共有した場の一部を追認できよう。また男爵の癖

の強い趣味、蒐集した作品は洗練され、視覚的に高度な豊かさに富み、逸話的な要素を排しながらも知的な戯れにあふれていることも読み取ることができよう。なお本稿において巻末の一覧中の項目に言及する際には D** と略記し、作品総目録の番号は、W**** と略し、() に記載する。

1 ドムシー男爵のコレクション、特に装飾画の評価

ルドンは1900年から1911年にかけて集中的に、現存する本格的な装飾画を制作したが^{xix}、その口火を切ったのが、ドムシー男爵の城館の食堂装飾 (D35, 36, 39, 40, W2535-2550, fig. 1) である^x。これまでに男爵の食堂装飾、特に現存15点の壁画 (1900-01年、パリ、オルセー美術館、W2536-2550) は、ヴュイヤール (Édouard Vuillard, 1868-1940) をはじめとするナビ派の装飾壁画に続く作品と位置づけられてきた^{xi}。15点の壁画は、ナビ派が装飾画に多用している、膠あるいは鶏卵に顔料を混ぜた絵の具であるデトランプで描かれており、技法が共通することからも、この解釈は広く受け入れられてきた。しかし《グラン・ブーケ (大きな花束)》(1901年、東京、三菱一号館美術館、W2535, fig. 2) だけはパステルで描かれており、この空間の中では異質である。そしてこの作品は、旧来の解釈では装飾画の歴史に適正に位置づけられることはなかった。理由のひとつとして、長年ルドン研究を牽引した往年の第一人者ロズリーヌ・バクーが、現在でも頻繁に参照されている論文を1992年に公表したにもかかわらず^{xii}、ドムシー男爵の城館を訪れたことがなく、《グラン・ブーケ》そのものを見たことがなかったことが挙げられよう。

バクーの研究における欠落を補うために、2011年にパリのグラン・パレほかで開催されたルドン展のマリー＝ピエール・サレの解説、そして2016年から翌年にかけてボルドーとカンペールで開催されたルドン展に寄せられたロドルフ・ラペッティのエッセーは、先行研究が唱えたナビ派との連続性を踏まえながら、装飾壁画が設置された食堂の環境、つまり絵画の外の環境と、絵画の内側の空間の関係に強い関心を示した^{xiii}。実際にドムシー男爵の城館を訪問したサレは、男爵の城館の周辺には豊かな自然が広がり、食堂では窓を通して外界の自然を感じることができたと証言しており^{xiv}、2011年のグラン・パレ会場では、当初装飾画が設置された食堂の状況を踏まえて、展示室の壁には窓を模した設えがなされていた^{xv}。一連の装飾画を設置現場の環境を含めて解釈する試みは画期的であり、2018年に三菱一号館美術館で開催された「ルドン ―秘密の花園」展は、男爵の装飾画、特にパステルの《グラン・ブーケ》(W2535, fig. 2) を、黒と色彩、双方のモチーフと表現が混在していることを指摘しながら、人工と自然、外界と室内など諸々の境界に位置付けた^{xvi}。また2018年の展覧会に先立つ講演で筆者は、2011年の展覧会の成果を踏まえ、《グラン・ブーケ》の画面右半分の比較的黒いパステルを用いた部分にルドンの黒の時代の代表的モチーフの蜘蛛の姿の名残を、さらに画面中央に、ルドンが得意とした眼あるいは顔のある花の名残を見出して、モチーフの面から分析を試みた^{xvii}。最近では2018年5月12日に開催されたシンポジウム「オディロン・ルドン 自然と装飾」においてダリオ・ガンボーニが、ドムシー男爵の食堂装飾のうちの《グラン・ブーケ》について、その主題を「善と悪」とする新しい解釈を提唱している^{xviii}。

一連の解釈を生んだ背景として、男爵の食堂の15点の装飾壁画と《グラン・ブーケ》の構想段階において、画家と注文主は頻繁に会い、イタリアや南仏に旅行をしているために、この時期の

書簡が残されていないことが挙げられよう。あるいは、書簡等は公開されていないだけなのかもしれない。いずれにしても制作意図は明らかにされていないが、ルドンは男爵の嗜好を理解し、装飾画には男爵の趣味を付度して反映していると思われる^{xix}。

ドムシー男爵の蒐集品については、バクーとサレが言及をしているが、全体を網羅しているわけではない^{xx}。またドムシー男爵の食堂装飾の全体の構成と、生成過程にかかわる史料はごくわずかである^{xxi}。だが15点の壁画と《グラン・ブーケ》だけが食堂内の装飾でないことは2011年にサレが指摘している^{xxii}。現場を訪れたサレは、食堂にはアヌシーからもたらされた、17世紀のタペストリー (fig. 1, a) が飾られていたと記している。筆者が入手した写真によると、このタペストリーの前景の左右には木立が配され、奥にはなだらかに傾斜した地に木立や草が明るい光に照らされている。複数の牛、羊、鹿などが手前の前景に配され、中景にも何頭かの動物たちが織り出されている。ドムシー男爵がルドンに装飾を依頼した食堂は現存しており、サレが記したようにタペストリーもそのまま残されていると思われる^{xxiii}。

ドムシー男爵の城館には、他にもルドンが描いた未公開作品が現存していると思われる。サレによると男爵の城館の食堂だけでも、知られている作品の他に、暖炉 (fig. 1, b) の上に装飾画が残されているというのである。このルドンの未公開壁画についてサレは、2011年のルドン展のカタログにおいて、1898年に制作されたと推定している。根拠となったのは「出納帳」の1898年1月の支払い (D24) であろう。またサレは、主題については「善と悪」いう見解を示した^{xxiv}。筆者もサレの記述を追認していたが^{xxv}、「出納帳」を通して男爵の作品購入記録を再確認した限りでは、サレの言う1898年1月 (D24) だけでなく、1902年7月 (D48) に支払いがなされた可能性も浮上し、どちらとも断言しがたい。だが本稿の準備過程で入手した写真の検討を加えると、この未公開作品の主題は、サレが言うように「善と悪」として問題ないと思われる。描かれた主要な三つのモチーフのうち二つについては、かなり近い絵柄の作品が男爵の旧蔵品に含まれていることを、以下で詳述する。

2 ドムシー男爵の蒐集についての情報の混乱

1893年にメレリオの仲介でルドンの面識を得たドムシー男爵が、ルドンからはじめて購入した作品が、《原始人》(D01, W836) であるという定説は、長年ルドン研究をけん引した往年の第一人者バクーによって示され、その後の研究者によって踏襲されている^{xxvi}。二人が出会った年を1893年とした根拠をバクーは示していないが、ルドンの「出納帳」には「メレリオの友人の一人」(D1) とわざわざ記されており、この「出納帳」の記述が、画家と男爵が出会った時期を推定した際のバクーの論拠と思われる。当時ルドンは木炭を中心に制作をし、次々と版画集を出版した「黒」の時代の終りを迎えようとしていた。1894年、デュラン＝リュエル画廊で、初めて本格的に色彩の作品を発表しているが、これに先立つ同年の1月、男爵は《まなざし》(D02, Wnr) と《癒えかけた恋の病》(D03, W1127) を購入しており、後者は油彩である。前者について山本敦子は、2011年から翌年にかけて浜松市美術館ほかで開催された『ルドンとその周辺 夢見る世紀末』展の作品解説において、岐阜県美術館が所蔵する《まなざし》と断じた^{xxvii}。木炭とパステルで描かれたこの《まなざし》の人物像は目の端を赤く染め、密儀宗教のミトラ (ミスラ

神)を思わせる髪型をしている。「出納帳」の記述と合致し、山本の指摘は妥当である。

《原始人》《癒えかけた恋の病》《まなざし》のいずれも、文学作品を着想源としていたとしても、にわかには原典を同定し難い。またシェイクスピアから取材したと思われる《マクベス夫人》(D15)は《エジプトの巫女》の題で展示されたが、男爵の購入時に改称されている。ルドンによる逸話的な表現と、男爵の嗜好の関係を考える上でも、興味深い変更である。だが概してルドンの作品は主題が明確ではなく、同定は困難である。CD ロム版の「出納帳」は、1907年の7月にルドンから男爵に売却された《花》(D67)をレゾネ番号 W2535としたが、これは《グラン・ブーケ》の番号で単純な誤りである。《まなざし》(D02, W nr)の場合、マリー＝ピエール・サレが《デモース》(D09, W nr)に加えるべき注釈「2001年11月7日、クリスティーズ、ニューヨーク、ロックフェラーセンター416番、カタログ31(複製図版)」を誤って《まなざし》(D02, W nr)にも転用しており、これもまた単純なミスである^{xxviii}。

1877年に描かれた《サテュロス》(D41, W nr)の場合、CD ロム版は複数の異なる作品に同じ W1231の番号を付しており、混乱が生じている。「出納帳」のCD ロム版60頁にはルドン自身によって、「木炭とパステルによるデッサン《サテュロス》。版画集『起源』に複製された。ド・ドムシーに譲る」と記されているが、CD ロム版60頁の注釈には、誤って絵画作品総目録の W1231番が付されている。作品の来歴などから考えると、同版の5頁、日刊新聞『ル・ゴロワ』社における展覧会に出品されたが、絵画作品総目録には記載されていない作品と同一であり、画家がドムシー男爵に譲った作品である。さらにCD ロム版の47頁と101頁にも記載された《サテュロス》も、同一作品である。だがルドン自身は1882年に描いた《サテュロス》の売却記録にも、『起源』に複製したと記した為、混乱を深めているのである^{xxix}。

「出納帳」によると、ルドンがオーロラと聖母像を組み合わせたのは、少なくとも1890年にまでさかのぼることができる。ルドンはこの年に、音楽家のエネスト・ショーソン(Ernest Chausson, 1855-1899)に対して、《オーロラの聖母》(W480)を売却している。この作品のコピー(D49, W2590)をドムシー男爵は1902年に取得しているのである。次項では、この男爵の城館を飾っている未公開作品《善と悪》について考察する。

3 ドムシー男爵の城館の未公開作品《善と悪》

未公開作品(fig. 3)は男爵の城館の食堂の暖炉の上に設置されている。中央にドムシー家の家紋が位置する、横長の上半分のみの楕円に展開する画面には、上下から白い大理石あるいは石膏の装飾が張り出している。家紋の上には白いヴェールを被って目を伏せた聖母が赤みを帯びた背景に浮かび上がり、前述のドムシー男爵が購入した《オーロラの聖母》のコピー(D49, W2590)に酷似する。未公開作品の右には青みを帯びたサテュロスの頭部が、聖母に背を向け、右下に向かう。左には白い煙か雲に包まれたような頭像が三つ描かれている。頭部のみの横顔がひとつ目を伏せながら下を向き、ふたつの横顔は聖母に目を向けている。主要なモチーフである聖母(暖炉上では中央)は《オーロラの聖母》、つまり音楽家のショーソンが所蔵していた前述の作品のレプリカ(D49, W2590)から採られている可能性が高い。サテュロスも男爵の旧蔵品(D41, W nr)から採られたと推測される。

ルドンの「出納帳」を見ると「暖炉（の上）」の作品としては既述のように、1896年に二回、1898年に一回、1902年にも一回の支払いが記録されている。男爵は1896年8月（D16）と10月（D18）に、それぞれパネル（＝壁画）の前払金（あるいは内金）として各200フランで小計400フランを画家に支払っているが、壁画の設置場所については「出納帳」に明示されていない。だが男爵からルドンに宛てた未公開の手紙により、バクーは図書室の暖炉の上と断定している。この作品は公開されていないだけでなく、写真も知られていない^{xxx}。主題についてルドンは「一人は善きそしてより良き途に、一人は悪の途に導こうとする二つの人物像とともにいる復讐の天使」と記述した^{xxxi}。バクーは「その精神において、画家が着手し始めたばかりの『黙示録』の版画に続く主題」と付け加えている^{xxxii}。男爵はルドンが描いた秘教的な主題から、図書館の暖炉上の作品の主題を着想したと推察される。

残るのは1898年1月「装飾の前金200フラン」（D24）、1902年7月「同時に支払われた男爵夫人のパステルによる肖像画（W86）の支払い残と合わせて500フラン」（D48）である。サレは1898年の支払いが食堂の暖炉の上の装飾と考えているが、1902年の支払いの可能性も完全には否定できない。《オーロラの聖母》（D49, W2590）は、同一モチーフを採った装飾の準備習作、又はモチーフの了解を男爵に得る過程で制作され、暖炉上の装飾画の後の1902年に購入され、支払われたと考えることも可能なためである。少なくともどちらかが、サレの記述する《善と悪》（fig. 3）と考えられよう。

ところで食堂の暖炉上の装飾に描かれた、空中を浮遊する三つの頭部については、類似作品は知られていないが、男爵が二つの、空を飛ぶ横顔を所蔵していたことがわかっている（D03, 34, W1127, 1126）。少なくとも、男爵がこのモチーフを愛好していたことだけは間違いない。サレは暖炉上の装飾の主題を「善と悪」としたが、浮遊する頭部は、左から右に向かって上昇する動きを見せており、画面が右から左へと展開する、西洋における一般的な絵画空間の時間経過に照らして違和感はない。また聖母マリアから見て、善なる右手側（鑑賞者からは左側）に善き人物たちの横顔、そして聖母から見て悪なる左手側（鑑賞者からは右側）に悪しき《サテュロス》（D41, W nr）を割振っている。伝統的に右と左に与えられた善と悪の象徴性を踏まえており^{xxxiii}、サレの解釈は妥当であろう。

4 ドムシー男爵の支払・蒐集品一覧表から読み取る、男爵の蒐集の傾向

ルドンが男爵夫人の肖像を描いたのは、1900年の2月である（D32, W2563, fig. 4）^{xxxiv}。ドムシー男爵は主役となる夫人の姿よりも、ニュアンスに富んだ背景が広く画面を占めることを是認している。この選択が画家によってなされたのか、さらには男爵が望んだものであるのかは、公開されている史料からは断言できないが、男爵は、パステルの予備習作よりも抽象度の進んだ油彩版の背景を好んだのではないだろうか。ルドンがその習作となるパステルを男爵に納めたのが、1902年と油彩作品の二年後であることもその証左であろう。「出納帳」によると、1902年7月に男爵は男爵夫人の肖像のパステル版と同時に、どの部屋かははっきり明示されていないが、暖炉上の装飾の代金を支払っている（D48）。

ところで、1901年に完成した《グラン・ブーケ》に黒い、蜘蛛を思わせる表現が見られること

は、男爵の嗜好の変遷をたどるうえで興味深い。男爵は1902年の5月という時期に、木炭による人面蜘蛛のヴァリエントのひとつ《蜘蛛》(D45, W1084) を入手している。1894年の個展以前に、油彩とパステルの作品を購入して、ルドンの色彩への転向を積極的に評価した男爵であるが、20世紀に入ってから、ルドンの画業の変化に逆行するかのよう、木炭作品を購入しているのである。ルドンがボンゲル (Andries Bonger, 1861-1936) に対して「黒」はどこに、と書き送ったのは、男爵による《蜘蛛》の入手に一年以上先立つが^{xxxv}、ボンゲルの所蔵品をルドンにコピーさせた《黒罌粟》(D60, W336) では、男爵はさらに一步踏み込み、既存作品のコピーを手に入れることも辞さなかった。色彩へと移行したルドンに木炭を持たせたのは、希少品を求める蒐集家心理だけによるのではないと思われる。男爵は、黒を悪、色彩を善とするような単純な価値判断とは別の審美眼を培っていた。と同時に、15点の壁画と《グラン・ブーケ》を、日夜眺めて過ごしたためではないだろうか。1901年10月14日に生まれた男爵の娘ジャンヌ (Jeanne de Domecy, 1901-?) の肖像 (D59, W725, fig. 5) では、ルドンは木炭を中心に、パステルなどでアクセントを加えながら、心の奥に目を向けるかのような老成した少女の姿を描いている。ドムシー男爵が1910年頃に入手した《運命の杯》において、異形の存在が浮かび上がる鉢を覗き込み、少々当惑したかのような、それでいて楽しんでいるような複雑な表情を見せるのは、画家の息子アリであろう (D83, W2569, fig. 6)。絵画作品総目録によると、一度ルネ・フィリポン伯爵 (René Philipon, 1870-1936) の手を経た後に、ドムシー男爵が入手している。

5 他の蒐集家の所蔵品との比較による、男爵の蒐集品の特性

蒐集家のルネ・フィリポン伯爵は、《運命の杯》だけでなく、ドムシー男爵とは別ヴァージョンの《神秘的な対話》(D23, W651, fig. 7) のパステル版も所蔵していた。フィリポン版では、向かって左側の年上の女性は、少し険しい表情を見せて、右手の女性に厳しく教え諭すかのようなのである。聖母マリアのご訪問から発展した主題で、時に年下の女性は巻紙を手にするのだが、当時の神秘主義者の間で理解されたように、年上の女性から年下の女性への秘教の手ほどきの情景として描かれたという指摘が、山本敦子によってなされている^{xxxvi}。故に年上の女性は説教をするかのような表情としぐさを見せることが多い。「出納帳」に記されたフィリポン版の題名は《神秘的な対話》であるが、現在所蔵館では《ご訪問》(W653, fig. 8) の名を用いている。同一主題であり、かつ画家も同じ名を与えながら、作品名が先祖返りしたのは、フィリポンが逸話性のある題名で呼びならわした故であろうか。ドムシー版 (D23, W651, fig. 7) では、向かって左手の女性の表情が、より多くを含み、複雑である。ドムシー男爵は神秘主義者であったとされ^{xxxvii}、男爵版では表情やしぐさによる物語的な描写はうすらいでいる。ヴァリエントにみられる巻紙のような秘教的な要素は排除されて直接的な表現が和らげられ、より想像力が働く余地が残されている。同じ神秘主義者であっても、男爵はフィリポン伯爵に比べて、より逸話的な要素を排除した作品を好んでいると言えよう。

ドムシー男爵版の《神秘的な対話》のもうひとつの特徴は、鮮やかな色がちりばめられた色彩表現である。ヴァリエントではしばしば巻紙を手にする年若の右手の女性の持ち物が、赤い枝に変更されていることは前述したが、松岡未紗は本作の多彩なマティエールを、科学調査を踏まえ

て分析している^{xxxviii}。画面上部のパレットナイフによって処理された絵の具層から、画面下部の下地を施さずに描かれた、ルドン自身の言葉を借りると「不思議な花々、夢の植物相」まで^{xxxix}、表現技法の幅は広い。物語的な要素を抑えながら赤い枝という知的な謎かけを戯れに仕掛け、多様な技法による豊かなマティエールを内包した本作は、視覚的に高度に洗練された、贅沢な作品と言えよう。年若い女性が手にする赤い枝は、ドムシー男爵の城館の食堂装飾のうち2点の《黄色い背景の樹》(W2536, fig. 9) (W2537, fig.10) にも描かれている。

ドムシー男爵が視覚表現の豊かさを好む一方で、物語の直接的な視覚化や、逸話的な表現を避けた作品を選んだことは、男爵のほかの旧蔵品を、男爵以外のコレクターの同主題作品と見比べるとさらに顕著である。現在岐阜県美術館が所蔵している男爵旧蔵の《翼のある横向きの胸像(スフィンクス)》(D31, W2615, fig.11) を、コレクターのアントワヌ・ド・ラ・ロシュフーコー伯爵 (Antoine de la Rochefoucauld, 1862-1959) が所蔵していた《神秘的な騎士、あるいはオイディプスとスフィンクス》(1892年、ボルドー美術館、W913, fig.12)^{xl} などと比較検討した論文が、つい最近、喜多崎親によって公表された^{xli}。西洋美術において取り上げられる機会が多くはなかったオイディプスとスフィンクスの神話であるが、19世紀のはじめにはアングル (Jean Auguste Dominique Ingres, 1780-1867) が《スフィンクスの謎を解くオイディプス》(1808-1827年、パリ、ルーヴル美術館) を、そしてギュスターヴ・モロー (Gustave Moreau, 1826-1898) が《オイディプスとスフィンクス》(1864年、ニューヨーク、メトロポリタン美術館) を描き、流行を見ている。

喜多崎によるとボルドー版 (fig.12) は、ギュスターヴ・モローの《オイディプスとスフィンクス》だけでなく、同じ画家の《オルフェウス》(1865年、パリ、オルセー美術館) をも併せて下敷きにしている。喜多崎はここで、2つの異なる主題を扱ったモロー作品を下敷きにしたルドンの表現方法を、和歌の「本歌取り」になぞらえて説明を加えており、説得力がある。本歌取りの手法で作られた和歌は、先行する作品を知っていることが鑑賞の要となり、鑑賞者にはそれだけの知識と教養が求められる。ラ・ロシュフーコー版の《神秘的な騎士、あるいはオイディプスとスフィンクス》を見る時に、鑑賞者はモローの作品を強く意識するのだが、ルドンは本歌となったモローの物語の叙述をうまく利用しながら、巧妙に文学的な要素を排除しており、表現を高度に洗練している。

ラ・ロシュフーコー版をきっかけにドムシー男爵が注文した《翼のある横向きの胸像(スフィンクス)》(fig.11) を、ラ・ロシュフーコー版 (fig.12) と比較してみると、オイディプスの姿は形をとどめず、逸話性の排除が徹底している。本歌取りを行ったラ・ロシュフーコー版の《神秘的な騎士、あるいはオイディプスとスフィンクス》よりもさらに徹底して文学的な要素が排され、視覚表現に重点がすり変えられており、《翼のある横向きの胸像(スフィンクス)》は、男爵の嗜好を今日に伝える作例として興味深いものである。

6 再び、未公開の食堂の暖炉上の装飾画《善と悪》と、《黄色い背景の樹》

男爵が注文した作品のうちでも、未公開の食堂の暖炉上の装飾《善と悪》(fig. 3) は、この本歌取りの解釈を援用すると、理解が容易になるのではないだろうか。前述のように、画面右手

の、青黒い顔をした《サテュロス》のヴァリエーションのうちのひとつ (W1231) は、「出納帳」によってエミール・ベルナール (Émile Bernard, 1868-1941) に1882年に譲られたことがわかっている。ルドンがドムシー男爵の食堂の壁に描く際に用いたのは、ルドンが1901年に男爵に売却した木炭版の《サテュロス》(D41, W nr) と思われる。前述のようにサレは、未公開の壁画の中央に描かれた聖母マリアその右手、善き心を表情に含みながら聖母マリアを見つめるふたりの人物を、聖なるものに向かう心を持つ人 (の魂)、そしてサテュロスを聖なるものに背を向ける悪しき心を持つ者 (の魂) と推定している^{xiii}。伝統的に用いられてきた右と左の象徴的な表現の習慣を踏まえて、聖母マリアから見て、善なる右手側に善き心、悪なる左側に悪しき心を表現しているとみなすこともでき、妥当な解釈であろう。また、非公開の壁画に向かって右手に描かれた三人の人物についても見直しておきたい。この部分には、ルドンの総作品目録に類似作が見当たらない三人の男の子が描かれているように見える。後にナルボンヌ近郊のフォンフロワド修道院に、蒐集家のギュスターヴ・ファイエ (Gustave Fayet, 1865-1925) の注文により、《夜》と《昼》の2点 (いずれも1910-11年、フォンフロワド修道院) を描いた際にルドンは、ファイエ家の二人の娘、シモーヌとイズーを描いている。フォンフロワドの例から類推すると、1898年の時点で三男二女に恵まれていた男爵の、三人の男の子たちをモデルとする可能性がある^{xiii}。

ドムシー男爵自身は、《サテュロス》(D41, W nr) とともに、《オーロラの聖母》のコピー (D49, W2590) を所蔵していた。ルドンは自作2点のモチーフを引用してコンテキストを付け替えることで、もとの作品の文脈から切り離して、異なる作品へと巧みに置き換えたのではないだろうか。《サテュロス》(D41, W nr) と《オーロラの聖母》(D49, W2590) を引用したこの未公開壁画でも、男爵版の《スフィンクス》(D31, W2615, fig.11) のように、逸話的要素が徹底して排除されていることも興味深い。男爵はこのようにルドン作品のなかでも、洗練された知的な遊びの要素を好んだことを証する例であろう。男爵は2点の《オフィーリア》(D63, D79) 購入しているが、ルドンの《オフィーリア》はいずれも水死の場面が、物語の説明的な要素を省いて表現される点が特徴であることを、六人部昭典は指摘している^{xiv}。

視覚的な豊かさに魅せられ、逸話的な要素を抑えた作品を好むドムシー男爵であるが、樹木のみを描いた作品は蒐集していない。だが男爵の食堂装飾には、ルドンが黒の時代から繰り返し描いてきた樹木が、人物や草花のモチーフに交じって描かれている^{xv}。ここではこれまで指摘されていないが、ドムシー男爵家の紋章が、三つの十字架と、大木で構成されていることに注目したい。この紋章は、未公開の食堂壁画《善と悪》の中央部に位置している (fig.3)^{xvi}。ルドンは食堂装飾のうちの2枚の《黄色い背景の樹》(W2536, fig.9, W2537, fig.10) の「樹木の肖像」に仮託して、男爵の紋章の「大木」を採り入れたという可能性も考えられよう。

ドムシー男爵が、食堂装飾の発注以前に、単体の「樹木の肖像」には関心を向けていないことは、男爵旧蔵品の一覧表を見れば明らかである。また15点の装飾壁画のうち、早くに着手されていたグループは、当初は壁紙のような文様がちりばめられていたが、途中で大きく改変されている^{xvii}。少なくともルドンは、男爵の望む壁画のイメージに合わせて描き始め、徐々に男爵を納得させて、自分が望むような表現になるようにしていったと考えられよう。15点の装飾壁画のうち、2点の《黄色い背景の樹》に見られる、大木のモチーフと重なりながら広がる黄色い花々は、男爵とルドンが旅行した際に、1901年に南仏で見た満開のミモザの花に誘発されていること

は既に指摘されている^{xlvi}。1901年の2月には、既に食堂壁画の一部は、男爵の城館に設置されていた。「樹木の肖像」を主要なモチーフとする2点の《黄色い背景の樹》は、男爵の食堂装飾においては、1901年2月には未設置であり、最後に完成したグループに含まれる^{xlvi}。そこにさし色のように加えられているのが、《神秘的な対話》(D23, W651, fig. 7)にもみられた、赤い枝である。

ドムシー男爵が1893年にルドンの知己を得てから3年しか経っていない1896年8月と10月に、図書室の暖炉上装飾壁画への支払い(D16とD18)をしており、これはアレクサンドル・ナタンソン(Alexandre Natanson, 1867-1936)がヴュイヤールに発注した9枚構成の装飾壁画《公園》(1894年、9枚中5枚はオルセー美術館)の完成に遅れることわずか3年、かなり早い装飾画の発注例である。男爵から図書室、食堂の装飾画の注文を受けた時期は、ルドンが急速に黒から色彩へと軸足を移す時期と重なるのだが、色彩の時代にあっても、黒のモチーフは継承されている¹。本論で先に引いた「蜘蛛」の例のように、20世紀の初めになると、男爵はルドンが徐々に描かなくなった黒の作品を買い求めるようになる。「樹木の肖像」や「蜘蛛」のような典型的な黒の時代のモチーフが名残をとどめる、15点の食堂装飾壁画と《グラン・ブーケ》を日々目にするのが、男爵が改めて黒の作品群の視覚的な豊かさに目を向けるきっかけとなったと思われるが、本稿で論じてきた男爵の嗜好の変化は、一覧表からも裏付けられよう。

参考文献

LETTRES DE REDON: *Lettres d'Odilon Redon, 1878-1916*, Paris, Bruxelles, G. Van Oest, 1923.

LETTRES À REDON: *Lettres de Gauguin, Gide, Huysmans, Jammes, Mallarmé, Verhaeren... à Odilon Redon*, Paris, José Corti, 1960.

BACOU 1956: Roseline Bacou, *Odilon Redon*, 2 vols., Genève, Cailler, 1956, pp.155-156.

BACOU 1992: *Id.*, «La décoration d'Odilon Redon pour le Château de Domecy (1900-1901)», *La revue du Louvre*, 1992, no.2, pp.42-51.

GROOM 1994: Gloria Groom, «The Late Work», dans Douglas W. Druick et al., *Odilon Redon: Prince of Dreams, 1840-1916*, Chicago, The Art Institute of Chicago, 1994, p.305-352.

RAPETTI 2016: Rodolphe Rapetti, «Redon et l'espace», dans Sophie Barthélémy et al., *La nature silencieuse: Paysages d'Odilon Redon*, cat. exp., Bordeaux, musée des Beaux-Arts de Bordeaux, pp.13-21.

SALÉ 2011a: Marie-Pierre Salé, «Redon et ses collectionneurs», dans Rodolphe Rapetti et al., *Odilon Redon, Prince du Rêve, 1840-1916*, cat. exp., Paris, Edition de la RMN et Musée d'Orsay, 2011, pp.43-53.

SALÉ 2011b: *Id.*, (notice sur le décor de la salle à manger au château de Domecy par), dans *Odilon Redon*, Paris, 2011, pp.302-313.

WILDENSTEIN 1992-1998: Alec Wildenstein et al., *Odilon Redon., Catalogue raisonné de l'œuvre peint et dessiné*, 4 vols., Paris, Wildenstein Institute; la Bibliothèque des Arts, 1992-1998.

喜多崎2000: 喜多崎親「呼び交す人物と背景—オディロン・ルドンの《ロベール・ド・ドムシー男爵夫人の肖像》に見る象徴主義絵画の隠喩的構造」『国立西洋美術館研究紀要』4、2000年3月、7-26頁。

喜多崎2018: 喜多崎親「イメージの本歌取り——オディロン・ルドンの2点の『スフィンクス』」、箱根2018所収、6-11頁。

松岡2018: 松岡未紗「ルドンヲカイボウスル」、箱根2018所収、143-148頁。

六人部2013: 六人部昭典「ルドンのオフィーリア作品」『実践女子大学文学部紀要』第55集、2013年、27-43頁。

安井2018a: 安井裕雄「ドムシー男爵の食堂装飾」、東京2018所収、67-71頁。

安井2018b: *Id.*「ドムシー男爵とドムシー男爵の食堂の装飾」、東京2018所収、95-105頁。

安井2018c: *Id.*「黒に棲まう動植物」、東京2018所収、107-109頁。

展覧会カタログ

Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95: Douglas W. Druick et al., *Odilon Redon: Prince of Dreams, 1840-1916*, cat. exp., Chicago, The Art Institute of Chicago, 1994.

Paris et Montpellier 2011: Rodolphe Rapetti et al., *Odilon Redon, Prince du Rêve, 1840-1916*, cat. exp., Paris, Edition de la RMN et Musée d'Orsay, 2011.

Hamamatsu, Kyoto et Tokyo 2011-12; 浜松・京都・東京2011:『ルドンとその周辺 夢見る世紀末』(展覧会図録)、中日新聞社、2011-12年。

Tokyo, Shizuoka, Gifu et Niigata, 2013; 東京・静岡・岐阜・新潟2013:『オディロン・ルドン:夢の起源』(展覧会図録)、岐阜県美術館ほか、2013年。

Tokyo 2018; 東京2018:『ルドン 一秘密の花園』(展覧会図録)、三菱一号館美術館、2018年。

Hakone 2018; 箱根2018:『ルドン 開かれた夢』(展覧会図録)、ポーラ美術館、2018年。

図版

fig. 1 ドムシー男爵の城館の食堂内、ルドンの15点の壁画と《グラン・ブーケ》の配置復元図。a: タペストリー、b: 暖炉、c, d: 扉、e, f, g: 窓。© D_CODE

fig. 2 ルドン《グラン・ブーケ》1901年、248.3cm×162.9cm、パステル／カンヴァス、東京、三菱一号館美術館蔵。© 三菱一号館美術館 (Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo)

fig. 3 ルドン《善と悪》1898年または1902年に完成、作品サイズ未詳、技法未詳、個人蔵。

fig. 4 ルドン《ドムシー男爵夫人の肖像》1900年、74.0×68.0cm、油彩／カンヴァス、パリ、オルセー美術館。photo: Hiroo Yasui

fig. 5 ルドン《ジャンヌ・ド・ドムシー嬢》1905年、木炭、パステル、／紙、ハイディ・ホルテン蔵。図版出典: Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, no.141, p.367.

fig. 6 ルドン《運命の杯》1894年、49×34.3cm、油彩／カンヴァス、個人蔵。図版出典: Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, no.118, p.197.

fig. 7 ルドン《神秘的な対話》1896年頃、65.0×46.0cm、油彩／カンヴァス、岐阜県美術館蔵。

fig. 8 ルドン《ご訪問》1896年頃、53.3×39.3cm、パステル／紙、パリ、オルセー美術館蔵。© RMN-Grand Palais (Musée d'Orsay)/Hervé Lewandowski/distributed by AMF

fig. 9 ルドン《黄色い背景の樹》1901年、249.5×185.0cm、木炭、油彩、デトランプ／カンヴァス、オルセー美術館蔵。© Musée d'Orsay, Dist. RMN-Grand Palais/Patrice Schmidt/distributed by AMF

fig.10 ルドン《黄色い背景の樹》1901年、247.5×173.0cm、木炭、油彩、デトランプ／カンヴァス、オルセー美術館蔵。© RMN-Grand Palais (Musée d'Orsay)/Hervé Lewandowski/distributed by AMF

fig.11 ルドン《翼のある横向きの胸像 (スフィンクス)》1898-1900年頃、71.0×54.8cm、パステル、木炭、チョーク／紙、岐阜県美術館蔵。

fig.12 ルドン《神秘的な騎士、あるいはオイディプスとスフィンクス》1892年頃、100.0×81.5cm、パステル、木炭／画布で裏打ちした紙、ボルドー美術館蔵。© Musée des Beaux-Arts, ville de Bordeaux. Photo F. Deval

(註)

- i «Livres de Raison (CD-ROM)» dans Paris et Montpellier 2011, p.17. CD-ROM 版（以下「出納帳」「LR (CD-ROM)」と略記）などに基づく本稿末の、ドムシー男爵旧蔵品一覧表 Appendice（以下「一覧表」と略記）の、最初の項目（D01）。
- ii 安井2018a、71頁。
- iii Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95.
- iv WILDENSTEIN, 1992-1998.
- v Paris et Montpellier 2011.
- vi メレリオ・ペーパーズ以外のドムシー男爵の記録はごく限られており、バクーが管理してきた画家の遺品中の書簡と、男爵の出生届、婚姻届、死亡届などが知られるのみである。
BACOU 1992. 安井2018b、97-98頁。
- vii 本稿の巻末一覧表は、筆者が2018年5月12日に日仏会館で開催されたシンポジウムでの発表に際して配布した資料に、加筆訂正を加えた。作成にあたり、小川カミユ、福田恭子両氏の協力を得た。記して謝する次第である。
- viii WILDENSTEIN 1992-1998.
- ix 画業の初期には、北フランスのアラスの礼拝堂の壁面を装飾した記録とともに、関連した人体習作が残っている。しかしながら作品そのものが現存していないため、ここでは考察の対象としていない。
- x BACOU 1956. BACOU 1992. GROOM 1994. 安井2018a、70頁。
- xi BACOU 1992. GROOM 1994.
- xii BACOU 1992.
- xiii SALÉ 2011b, p.305. RAPETTI 2016, p.21. 安井2018b、103頁。
- xiv 筆者からの質問に口頭で回答。2010年6月。
- xv Paris et Montpellier 2011.
- xvi 安井2018b。
- xvii ブリヂストン美術館の土曜講座において筆者は、『グラン・ブーケ』のモチーフについて、画面左には蜘蛛を思わせる黒い形態が、右上には植物（つぼみなど）から花、そして昆虫への変貌が配されていること、そして画面中央の、パステル粉が仕上げ段階あるいは運搬後に付けられた箇所には初期の段階で、目あるいは顔が配されていた可能性が高かったことを指摘した。また画面構成について、画面下部を中心に、薄い皮膜のような水面を暗示する描写が見られること、そして生命の源である母なる大地から切り離され、水を断たれた切り花が、はじめは上昇するがやがて落下する運動を見せること、技法面では二重描線を多用して暗示的な画面を形成していることも併せて指摘した。さらに黒から色彩へと変化したルドン自身の表現を集約しながら、彼岸と此岸の境界にある最後の生命の輝きを、此の世でも彼の世でもない境界上に表現しようとした、と結論付けた。
「ルドンの植物誌 Flore d'Odilon Redon『再現と想起というふたつの岸の合流点にやってきた花々』」、ブリヂストン美術館土曜講座、2014年3月29日。
- xviii ガンボーニは画面左半分を悪とみなしたが、黒の時代の名残のモチーフが多く存在する。黒のモチーフを色彩の時代でも転用していたルドンが、黒の時代から引き継いだモチーフを単純に悪と考えていたとするのは無理があるのではないだろうか。ガンボーニの新解釈は、三菱一号館美術館の研究紀要に、シンポジウムの講演録として採録される予定であり、改めて議論が必要と思われる。
安井2018c。
- xix 安井2018a、67-68頁。

- xx BACOU 1992. SALÉ 2011a.
- xxi 食堂内の壁の各面の成立順についての仮説は、安井2018b、98-100頁。
- xxii SALÉ 2011b, p.305.
- xxiii 《グラン・ブーケ》の仲介者が、筆者の照会に対して2010年6月に口頭で回答。
- xxiv SALÉ 2011b, p.305.
- xxv 安井2018b、98頁。
- xxvi BACOU 1992, p.48.
- xxvii 浜松・京都・東京2011-12, no.75, p.91.
- xxviii SALÉ 2011a, p.45.
- xxix リーマンはドムシー男爵が入手した作品を、1877年に描かれ、1882年に『ル・ゴロワ』紙の社屋で開催された展覧会への出品作とみなしている。「Au Gaulois en 1882 [...] -Satyre 200 (de Domecy) [W1231a; 1877]», LR (CD-ROM), p. 5. この表記に従えば、47頁、60頁、さらに101頁に記載された同一作品は W1231a、すなわち W1231の原作とすべきであろうが、ここでは混乱を防ぐために W nr をあてている。W1231については、同じ「出納帳」上の49頁と69頁に掲載されている。「*Satyre*, (copie) à E Bernard [W1231]», LR (CD-ROM), p.49, «1904 [...] Mai [...] 552 325 *Satyre*, dessin qui servit pour l'une des planches de l'album *Origines* (réplique) [W1231; 1882]», LR (CD-ROM), p.69.
- xxx BACOU 1992, p.43.
- xxxi D16: «Un Ange vengeur avec deux figures incitant l'un au bien et au mieux, l'autre au mal».
- xxxii BACOU 1992, p.43: «thème qui se situe bien dans l'esprit des planches de l'*Apocalypse* auxquelles l'artiste commence à travailler».
- xxxiii 19世紀末から20世紀にかけて、前衛的な芸術家であっても、西欧文化圏で伝統的に右と左に割り当てられた象徴性を無視できなかった。ルドンと同年生まれのロダンの場合、むしろ積極的に自作に取り込んでいたことが知られている。安井裕雄「饒舌なる手」『ロダン 一創造の秘密』（展覧会図録）、岩手県立美術館ほか、2006-2007年、184-189頁。ルドンにおいてもこの左右の象徴性が重要視されることを、2018年5月12日の発表で、ガンボーニが指摘している。
- xxxiv 喜多崎2000。
- xxxv Lettre de Redon à Andries Bonger, le 17 janvier 1901, citée dans LETTRES DE REDON, pp.43-44: «Les *Noirs*, où sont-ils maintenant ?».
- xxxvi 山本敦子の解説による。浜松・京都・東京2011, no.74、90頁。
- xxxvii 同上。
- xxxviii 松岡2018、145頁。
- xxxix LR (CD-ROM), p.29: «des fleurs bizarres d'une flore rêve [*sic.*] à ses pieds».
- xl ラ・ロシュフーコー伯爵は、『神秘的な騎士、あるいはオイディプスとスフィンクス』と酷似した大型の紙作品『神秘的な騎士、あるいはスフィンクス』（制作年未詳、個人蔵、W914）を所蔵していたと、絵画作品総目録に記述されている。
- WILDENSTEIN 1992-1998.
- xli 喜多崎2018。
- xlii SALÉ 2011b, p.305.
- xliii 11人の人物像を、夫婦ふたりと9人のこどもとすると、『11人の人物像』（D82, W2568）は、ドムシー男爵の家族の肖像で、男爵自身の姿を描いた数少ない絵画なのかもしれない。
- xliv 六人部2013、27頁。

xliv 安井2018a。

xlvi バクーによるとルドンは、1897年の春以前に男爵の城館を訪れており、食堂の中で暖炉と周辺の装飾を見ている。BACOU 1922, p.43. 次の記録は1900年12月に、ドムシー男爵の城館で、食堂壁画の一部を設置するのに立ち会っている。Lettre de Redon à Paul Gobillard, le 25 décembre 1900, LETTRE DE REDON, pp.42-43, citée dans BACOU 1992, p.44, 安井2018b、99頁。

なお筆者は、ドムシー男爵の城館を訪れたことがなく、《善と悪》の写真は、同僚の石神森から提供を受けた。また、挿図 (fig.3) のアウトライン化の作業では、同僚の小野瀬聡美の手を煩わせた。記して謝する次第である。

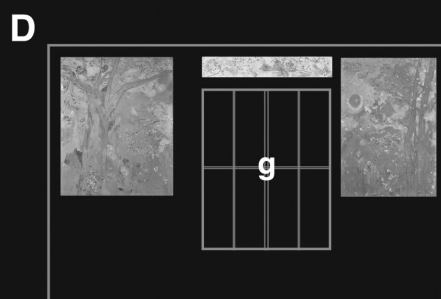
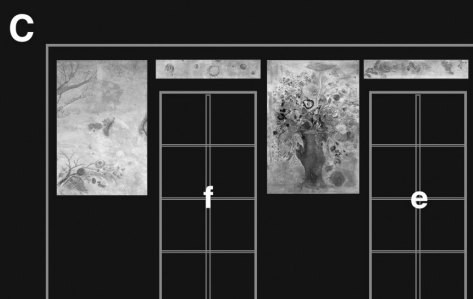
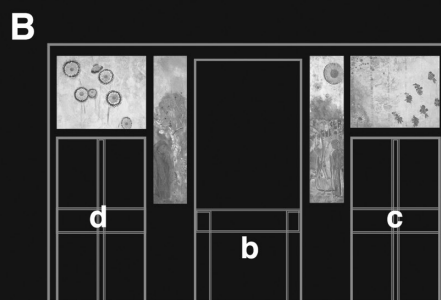
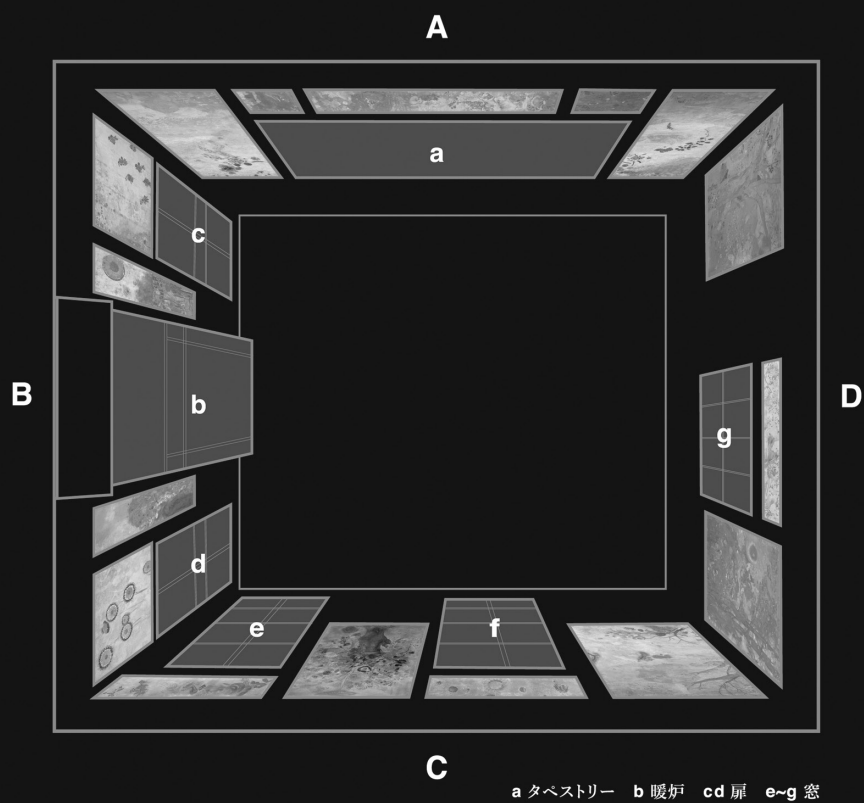
xlvi 安井2018b、108頁において筆者は、《人物（黄色い花）》(W2540) のカンヴァスの継直しを例に挙げた。ほかにも実作品からは、例えば《ひな菊》(W2545) と《花とナナカマドの実》で、縄のれん状に垂れ下がった文様の上にデトランプで重ね塗りされていることが、肉眼で明確に識別できる。

xlvi 安井2018b、99頁。Lettre de Redon à Madame Redon (inédite), le 26 février 1901, citée dans BACOU 1992, p.44.

xlix 安井2018b、99-102頁。

l 安井2018c。

ドムシー城食堂装飾画配置図



©D_CODE

fig. 1 ドムシー男爵の城館の食堂内、ルドンの15点の壁画と《グラン・ブーケ》の配置復元図。a：タペストリー、b：暖炉、c, d：扉、e, f, g：窓。© D_CODE



fig. 2 ルドン《グラン・ブーケ》1901年、248.3cm × 162.9cm、パステル／カンヴァス、東京、三菱一号館美術館蔵。© 三菱一号館美術館 (Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo)

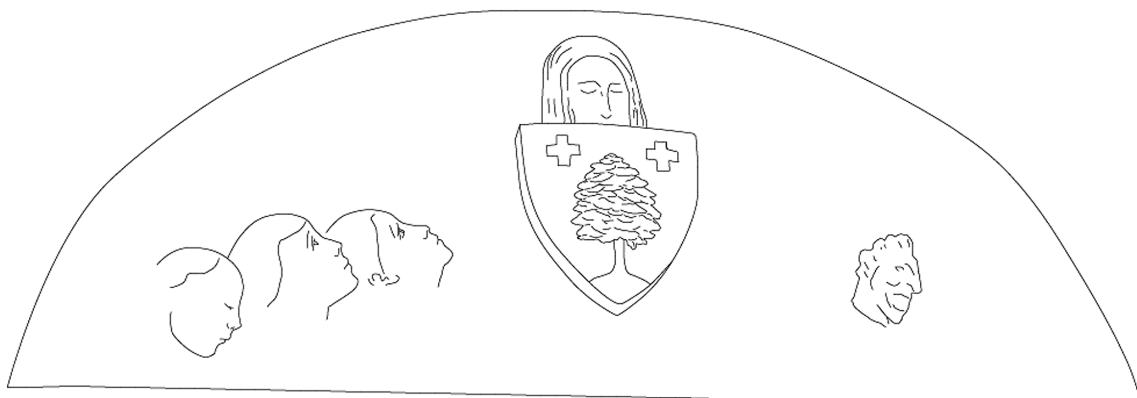


fig. 3 ルドン 《善と悪》 1898年または1902年に完成、作品サイズ未詳、技法未詳、個人蔵。



fig. 4 ルドン 《ドムシー男爵夫人の肖像》 1900年、74.0×68.0cm、油彩／カンヴァス、パリ、オルセー美術館。photo: Hiroo Yasui



fig.5 ルドン《ジャンヌ・ド・ドムシー嬢》1905年、木炭、パステル、／紙、ハイディ・ホルテン蔵。図版出典：Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, no.141, p.367.



fig. 6 ルドン《運命の杯》1894年、49×34.3cm、油彩／カンヴァス、個人蔵。図版出典：Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, no.118, p.197.

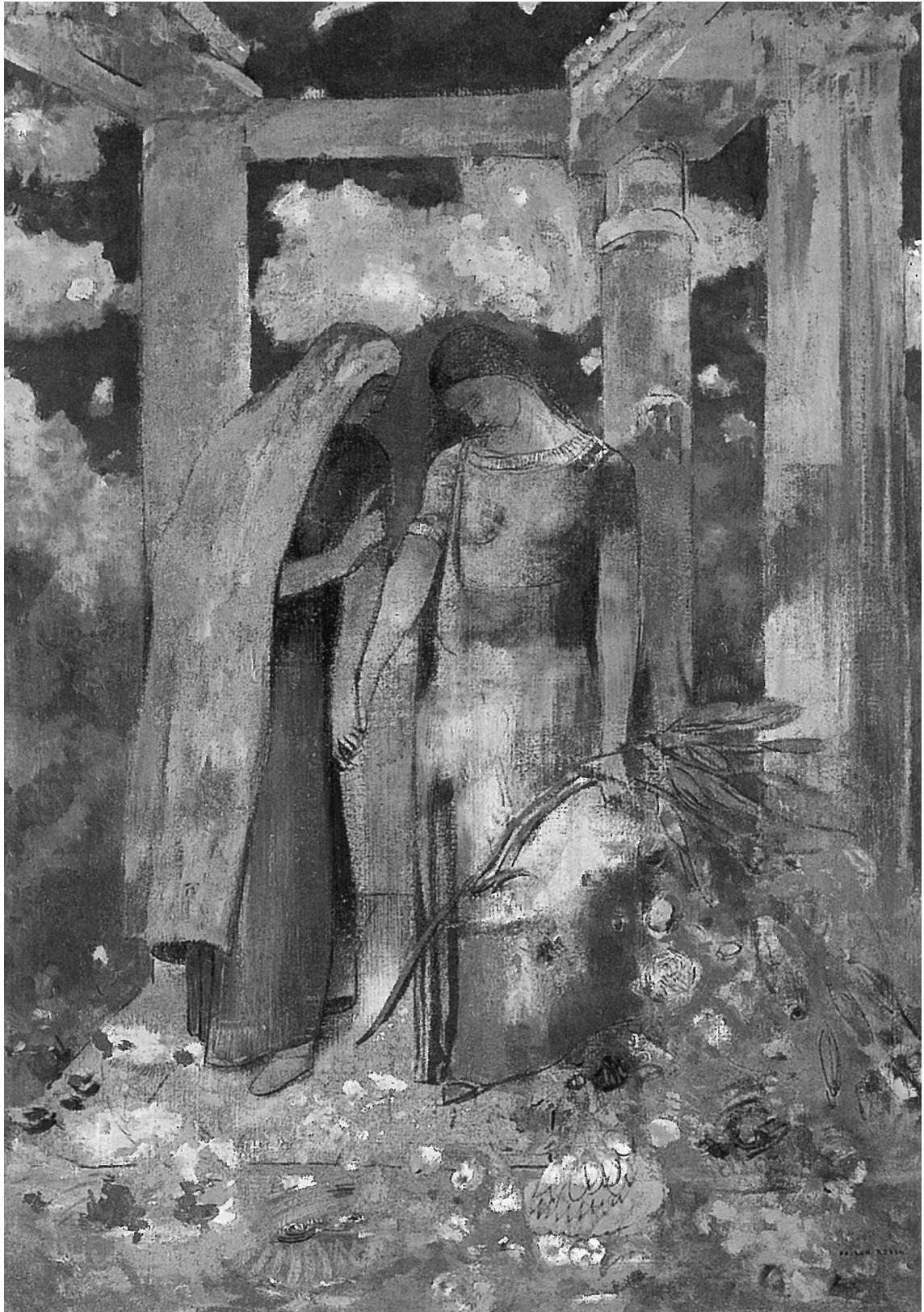


fig. 7 ルドン《神秘的な対話》1896年頃、65.0×46.0cm、油彩／カンヴァス、岐阜県美術館蔵。



fig. 8 ルドン《ご訪問》1896年頃、53.3×39.3cm、パステル／紙、パリ、オルセー美術館蔵。© RMN-Grand Palais (Musée d'Orsay)/Hervé Lewandowski/distributed by AMF



fig. 9 ルドン《黄色い背景の樹》1901年、249.5×185.0cm、木炭、油彩、デトランプ／カンヴァス、オルセー美術館蔵。© Musée d'Orsay, Dist. RMN-Grand Palais/Patrice Schmidt/distributed by AMF



fig.10 ルドン《黄色い背景の樹》1901年、247.5×173.0cm、木炭、油彩、デトランプ／カンヴァス、オルセー美術館蔵。© RMN-Grand Palais (Musée d'Orsay)/Hervé Lewandowski/distributed by AMF










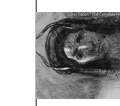




fig.11 ルドン《翼のある横向きの胸像（スフィンクス）》1898-1900年頃、71.0×54.8cm、パステル、木炭、
チョーク／紙、岐阜県美術館蔵。



fig.12 ルドン《神秘的な騎士、あるいはオイディプスとスフィンクス》1892年頃、100.0×81.5cm、パステル、木炭／画布で裏打ちした紙、ボルドー美術館蔵。© Musée des Beaux-Arts, ville de Bordeaux. Photo F. Deval





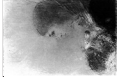

La Collection du Baron de Domecy

Le 17 Octobre 2018 Hiroo Yasui

n°	image	mois	année	n° de Wildenstein	n° du LR	n° du LR	titre	description dans LR etc.	source	localisation actuelle	notes
D01		mai	1893	W0836	134	111	<i>L'Homme primaire</i>	De M. Domecy, [sic] ami de Melléro [sic]. Pour le dessin <i>Homme primaire</i> [W 836 ; 1872] (LR(CD-ROM), p. 17)	100	The Art Institute of Chicago	Chicago, Amsterdam et Londres 1994-95, n° 32. SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 5 (À Bruxelles[...]) <i>Homme primitif</i> (dont le prix est trois fois plus cher) ; 300, p. 17, p. 45 (Homme primaire assis, dans l'ombre app. à M. Tasset ou à M. de Domecy [W836]), p. 93 (111 <i>Homme Primitaire, accroupi</i> [W836; 1872]).
D02		janv.	1894	*nr	159		<i>Le Regard</i>	De M. de Domecy. <i>Le Regard</i> (pastel). Une tête de femme vieille coiffée d'une sorte de mitre. Elle a les yeux comme sanguinolants [sic]. – Et trois lithographies [Vente New York, Christie's, 7 novembre 2001, lot 416] (LR(CD-ROM), p. 18)	130	*The Museum of Fine Arts, Gifu.	SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 18, p. 51 (1889 [...]) <i>Le Regard</i> (dessin rehaussé) à M. de Domecy [Vente New York, Christie's, 7 novembre 2001, lot 416]. *Hamamatsu, Kyoto et Tokyo 2011-12, n° 75, p. 91.
D03		[janv.]	1894	*W1127	160		<i>L'Amour convalescent</i>	2 <i>L'Amour convalescent</i> (peinture). Une tête vole dans l'espace, vue de profil, avec une bonnette et un petit gland (LR(CD-ROM), pp. 18-19)	100	li	
D04		[janv.]	1894	W0946 (BACOU 1992, p. 42, SALÉ 2011, p. 45)	161	123	<i>La Femme poupée</i>	2 [sic] <i>La Femme poupée</i> , dessin. Une femme comme une idole de pierre vue à mi-corps. Un homme lui prend le bras et la supplie, l'interroge : elle n'y répond pas. Au fond, une tête de femme âgée, en douleur. (LR(CD-ROM), p. 19)	50	CP	BACOU 1992, p. 42. SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 19, p. 93 (123 <i>Femme poupée</i> , sorte d'idole de pierre qu'un homme interroge et supplie, dans le fond une tête de [femme] âgée douloureuse douloureuse-de-veille-femme).
D05		[janv.]	1894	W1155	162	124	<i>L'Ange bourreau</i>	3 <i>L'Ange bourreau</i> , dessin. Vu à mi-corps, il tient à la main un glaive, devant lui une tête coupée. [W 1155] (LR(CD-ROM), p. 19)	60	Michael N. Altman, New York.	SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 19, p. 93 (124 <i>Ange-bourreau</i> , glaive en main, devant une tête coupée [W 1155]).
D06		[janv.]	1894	W1149	163	125	<i>Après le supplice</i>	À M. Domecy. 1 <i>Après le supplice</i> , dessin. Une tête sur une sorte de billot, orné de centaures. Sous l'oreille, une boule [W1149 ; 1877] (LR(CD-ROM), p. 19)	100	Margrit und Rolf Weinberg, Zurich, 1989.	Chicago, Amsterdam et Londres 1994-95, n° 47. SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 19, p. 47 (1877 [...]) <i>Après le supplice</i> (à M. de Domecy [W 1149]), p. 93 (125 <i>Supplicié</i> . D'un instant de survie, la tête sur un billot ouvragé de petits centaures, près de son oreille, une boule [W1149 ; 1877]).
D07		[janv.]	1894	W2373	164	126	<i>Le Séminariste</i>	2 <i>Le Séminariste</i> , dessin. Il a les mains jointes, il lève les yeux. Il a une tête bestiale, les lèvres sensuelles. [W 2573] (LR(CD-ROM), p. 19)	100	Jan Krugier, Genève.	SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 19, p. 93 (126 <i>Séminariste</i> les yeux levés, les mains jointes [W 2573]).
D08		[avril [sic.]	1894	–				De M. Domecy. Omission, deux lithographies (LR(CD-ROM), p. 19)	20	–	
D09		[juin - juillet]	1894	*nr	174		<i>Démone</i>	De M. de Domecy. <i>Démone</i> (pastel). (LR(CD-ROM), p. 20)	120	Christie's New York, Rockefeller Center, 7 novembre 2001, n° 416, cat. p. 31 (repr.).	SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 20.
D10		5 janv.	1895 ?					De Domecy, id. [litho.] (LR(CD-ROM), p. 21)	20	li	
D11		mai	1895 ?		222		<i>L'Enfance</i>	De M. de Domecy pour : <i>L'Enfance</i> (pastel). 2 têtes surmontées d'une fleur (LR(CD-ROM), p. 23)	↓	li	
D12		mai	1895 ?		223		<i>Les Fleurs de sang</i>	<i>Les Fleurs de sang</i> (pastel). Une femme dans les boutes cueillant des fleurs [W 776 ; 1895] (LR(CD-ROM), p. 23)	200	li	LR(CD-ROM) p. 23, p. 53 (- <i>Fleur de sang</i> pastel [W 776] appart. à M. de Domecy). *Malgré la notice de LR(CD-ROM), <i>Les Fleurs de sang</i> [W776] au musée d'Ossay n'est pas le même pastel que celui indiqué dans LR.
D13		[déc.]	1895	W0726	244		<i>*Profil de jeune fille</i>	De Domecy pour un dessin à la sanguine, une jeune fille tête inclinée [W 726] (LR(CD-ROM), p. 25)	100	Thomas Le Claire, Hambourg, 1997.	

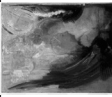
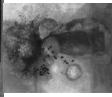

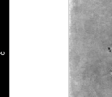



La Collection du Baron de Domecy

Le 17 Octobre 2018 Hiroo Yasui

n°	image	mois	année	n° de Wildenstein	n° du LR	n° du LR	titre	description dans LR etc.	somme	localisation actuelle	notes
D14		avril	1896	3 ^e série de St Antoine			<i>Tentation de St Antoine</i>	De M. Domecy 2 albums <i>Tentation de St Antoine</i> , 3e série dont l'une sans les titres (LR(CD-ROM), p. 26)	200 li		BACOU 1992, p. 42.
D15		avril	1896	W2588	248	189	<i>Préresse égyptienne</i>	De Domecy Un dessin <i>Préresse égyptienne</i> , rigide avec un flambeau devant elle (elle fut exposée sous le titre <i>Lady Macbeth</i>) [W 2588 ; 1876] (LR(CD-ROM), p. 26)	100	The Pierpont Morgan Library, New York, Thow Collection.	BACOU 1992, p. 42. SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 26, p. 46 (1876 (...)) <i>Lady Macbeth (Préresse d'Égypte)</i> app. à M. de Domecy [W 2588], p. 96 (189 <i>Préresse Égyptienne</i> , rigide à mi-corps, de face, rig avec un flambeau devant elle. Ce dessin fut quelquefois exposé sous le titre de <i>Lady Macbeth</i> [W 2588; 1876]).
D16		août	1896	*nr	251		?	De M. de Domecy, 1 ^{er} a-compte [sic.] sur la commande d'un panneau pour le dessus d'une cheminée au château de Domecy. Un ange vengeur, avec deux figures incitant l'un au bien et au mieux, l'autre au mal (LR(CD-ROM), pp. 26-27)	200	Château de Domecy?	*Marie-Pierre Salé déclare que Redon avait commencé à décorer le château de Domecy par un décor de cheminée intitulé <i>Le Bien et Le Mal</i> mais qui était vraisemblablement une œuvre différente de <i>l'Ange vengeur</i> , ... D16 dans la présente liste, et dans LR(CD-ROM)pp. 26-27, voir SALÉ 2011, p. 304.
D17		sept.	1896	?	252	190	?	De M. Domecy pour un dessin ; une femme auréolée, vue de profil, entourée de fleurs. Elle est dessinée sur papier blanc (LR(CD-ROM), p. 27)	100 li		
D18		octobre	1896	?			?	De Domecy 2 ^e a-compte [sic.] pour le panneau (LR(CD-ROM), p. 27)	200	Château de Domecy?	
D19		[janv. - fév.]	1897	W2589	257 [sic.]	192	<i>Deuil</i>	Un dessin, Deuil, une tête de jeune homme, les yeux baissés, il est vu de face, entouré d'une sorte de cadre noir. Une fleur épineuse près de la bouche. De Domecy [W 2589] (LR(CD-ROM), p. 28)	100 CP		SALÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 28, p. 96 (192 <i>Deuil</i> , tête Visage de jeune homme, les yeux baissés, avec une fleur épineuse près de la bouche, entouré [sic.] d'une sorte de cadre noir [W 2589]).
D20		[janv. - fév.]	1897	*1 ^{er} série de St Antoine?			<i>Tentation St Antoine</i>	2 albums <i>Tentation St Antoine</i> . De Domecy (LR(CD-ROM), p. 28)	200 li		BACOU 1992, p. 42.
D21		27 fév.	1897	W0425	258		<i>Buste d'une enfant</i>	Pastel, <i>Buste d'une enfant</i> , ainsi qu'une sorte de sculpture vivante. Le socle est une sorte de torsade bleue et posé sur un sol vert, fond orangé [W 425 ; 1884] De Domecy (LR(CD-ROM), p. 28)	120 CP		Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, n° 91. LR(CD-ROM), p. 28, p. 50 (1884 (...)) Petit buste de petite fille (pastel) ap. à M. de Domecy [W 425].
D22		avril	1897	?	260		?	G. Pellet pour : Un pastel <i>Femme au corselet bleu chiné gris et bleu</i> . Tête à la sanguine, pensive. [Par ?] de Domecy (LR(CD-ROM), p. 29)	200 li		
D23		26 ré [déc.]	1897	W0651	267		<i>Entretien mystique</i>	De M. Domecy, v. d'une peinture (non signée). 2 femmes variant <i>l'Entretien mystique</i> ; l'une des femmes tient un rameau aux branches rouges, des fleurs bizarres d'une flore rêve [sic.] à ses pieds ; l'autre vêtue de jaune et violet lui parle, deux colomes somnaitre [sic.] courent le ciel bleu, taché de nuages roses. [W 651] (LR(CD-ROM), p. 29)	150	The Museum of Fine Arts, Gifu.	BACOU 1992, p. 42. Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, n° 124. LR(CD-ROM), p. 29.
D24		[janv.]	1898	*nr	299		*Peinture ornementale de chantée Le Bien et Le Mal ?	De M. Domecy Avances pour un travail d'ornementation d'une cheminée du château de Domecy (LR(CD-ROM), p. 32)	200	Château de Domecy?	*Le "travail" mentionné par Marie-Pierre Salé qui correspond au D24 ici et au LR(CD-ROM) p. 32 est <i>Le Bien et Le Mal</i> . Voir SALÉ 2011, p. 304, et notes D16 de la présente liste.
D25		juin	1898	—	308			De Domecy (LR(CD-ROM), p. 33)	520		
D26		juillet	1898	—	309			De Domecy (LR(CD-ROM), p. 33)	150		
D27		[nov.]	1898	—	322			De Domecy (LR(CD-ROM), p. 33)	200		
D28		mai	1899	W0140	403		<i>Profil d'enfant</i>	<i>Profil d'enfant</i> . Sur fond vert et or, une sorte de fleuraison violette devant son corsage gris noir [W 140 ; 1895] (LR(CD-ROM), p. 56)	↑	Thomas Gibson Fine Art, Ltd., Londres, 1994.	LR(CD-ROM), p. 53 (= <i>L'Enfance</i> (pastel) [W 140] (...)) appart. à M. de Domecy, p. 56.
D29		mai	1899	W0204	404		<i>Fleurs de fantaisie</i>	<i>Fleurs de fantaisie</i> , dans un vase violet, au fond un profil de femme avec une cape. Pastel sur papier Ingres [W 204] (LR(DVD), p. 56)	↑	CP	


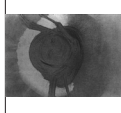
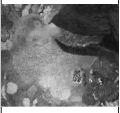


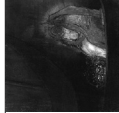
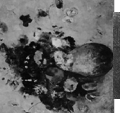
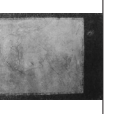
La Collection du Baron de Domecy

Le 17 Octobre 2018 Hiroo Yasui

n°	image	mois	amée	n° de Wildenstein	n° du LR	titre	description dans LR etc.	somme	localisation actuelle	notes
D30		mai	1899	W0244	405	<i>Profil de jeune fille.</i>	<i>Profil de jeune fille.</i> Une cape brune sur la tête, et bordée d'une lisière aux ornements d'or. Tête brun-vert, devant elle une sorte de colonne avec des ornements jaunes [W 244] De M. de Domecy, pour ces trois pastels (LR(DVD, p.56)	500	Galerie Jan Krugier, Genève, 1994.	
D31		10 janv.	1900	W2615	437	<i>Visage vert de profil</i>	Pastel, un visage vert de profil, une sorte d'aile près de lui, dans le haut des colonnes dans un rayonnement. [W 2615] De Mr de Domecy (LR (CD-ROM), p. 57)	200	The Museum of Fine Arts, Gifu.	
D32		fév.	1900	W2563		<i>Portrait de M^{me} de Domecy</i>	De M. de Domecy pour les séances de portrait de Mr [M ^{me} ?] de Domecy [W 2563] (LR (CD-ROM), p. 57)	600	Paris, musée d'Orsay.	
D33		6 mars	1900	*W1548	441	<i>Fleurs</i>	Fleurs (pastel) dans un vase en hauteur [W 1548 ?] De M. de Domecy (LR (CD-ROM), p. 58)	300 CP		
D34		[mai]	1900	W1126	445	<i>Tête d'ange avec des ailes</i>	Omission. Une peinture, tête d'ange avec des ailes, dans un paysage de plaines ; ciel lumineux [W 1126] De M. de Domecy Id. (LR (CD-ROM), p. 58)	300 200	Jaques Spiess, Paris, 1982.	BACOU 1992, p. 42.
D35		14- [juin]	1900	W2535, 2536-2550			De M. de Domecy, avance sur des décorations [W 2536-2550] (LR (CD-ROM), p. 59)	1000	W2535, Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo et W2536-2550, Paris, musée d'Orsay.	
D36		12 juillet	1900	W2535, 2536-2550			De M. de Domecy 2e a-compte [sic.] sur les travaux de la décoration du château de Domecy [W 2536-2550] (LR (CD-ROM), p. 59)	1000	W2535, Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo et W2536-2550, Paris, musée d'Orsay.	
D37		sept.	1900	?	456	<i>Fleurs de Rêves</i>	De M. Domecy à St Georges Pour un tableau <i>Fleurs de Rêve</i> , toile n° 8 (LR (CD-ROM), p. 59) Pour une peinture <i>Fleurs dans une coupe</i> [W 1624] (LR(CD-ROM), p. 59)	200 li		
D38		nov.	1900	W1624	457	<i>Fleurs dans une coupe</i>		300 CP		
D39		[déc.]	1900	W2535, 2536-2550			De M. Domecy a-compte [sic.] sur décorations [W 2536-2550] (LR (CD-ROM), p. 60)	500	W2535, Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo et W2536-2550, Paris, musée d'Orsay.	
D40		[après le 25 avril]	1901	W2535, 2536-2550			De M. Domecy pour le solde des indemnités pour les décorations murales de la salle à manger du château [W 2536-2550] (LR (CD-ROM), p. 60)	2200	W2535, Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo et W2536-2550, Paris, musée d'Orsay.	




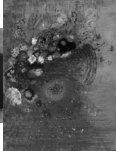
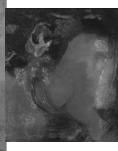


La Collection du Baron de Domecy

Le 17 Octobre 2018 Hiroo Yasui

n°	image	mois	année	n° de Wildenstein	n° du LR	n° du LR	titre	description dans LR etc.	somme	localisation actuelle	notes
D41		[avril - mai]	1901	*nr	472	297	<i>Satyre</i>	<i>Satyre</i> , dessin au fusain et au crayon. Il fut reproduit en lithographie dans l'album des <i>Origines</i> [W 1231] Cédé à M. de Domecy (LR(CD-ROM), p. 60)	140 CP		Chicago, Amsterdam et Londres 1994-95, n° 46. SALLÉ 2011, p. 45. LR(CD-ROM), p. 5 (Au Gaulois en 1882 [...]) - <i>Satyre</i> 200 (de Domecy) [W 1231a : 1877], p. 47, p. 60, p. 101 (287 <i>Satyre</i> . Crayon noir fusain vigoureux. Il a été reproduit en lithographie dans l'album <i>Les Origines</i> [1231]).
D42		[avril - mai]	1901	?	473			Pastel de fleurs, 2 grosses pivoines ou coquelicots au bas. d	250 li		
D43		2 déc.	1901	?	497			De M. Domecy (LR(CD-ROM), p. 60) <i>Fleurs</i> (pastel) dans un vase bleu, fond rose A M. Domecy (LR(CD-ROM), p. 62)	200 li		
D44		[déc.]	1901	?				Copie d'un pastel, faite à l'huile Pour M. Domecy. A-compte [sic.] (LR(CD-ROM), p. 63)	300 li		
D45		Ann " [mai]	1902	W1084	59 507	313	<i>Araignée</i>	De M. Domecy pour : <i>Araignée</i> (dessin) avec face humaine de femme (dessin) [W 1084] (LR(CD-ROM), p. 64)		Thaw Collection, The Morgan Library & Museum, New York.	SALLÉ 2011, p. 45 (copie ou variante). LR(CD-ROM), p. 64, p. 101 (313 <i>Araignée</i> avec face humaine de femme [W 1084]).
D46		[mai]	1902	?	508			(LR(CD-ROM), p. 64)	370		
D47		juin	1902	W0086	512		<i>Portrait de M^{re} de Domecy</i>	Portrait de M ^{re} de Domecy. Un dessin rehaussé, avec fleurs dans le fond (esquisse pour le portrait à l'huile) [W 86] De M. Domecy (à compte [sic.]) (LR(CD-ROM), p. 64)	300	J. Paul Getty Museum.	Chicago, Amsterdam et Londres 1994-95, n°132. LR(CD-ROM), p. 5 (Au Gaulois en 1882 [...]) - <i>Satyre</i> 200 (de Domecy) [W 1231a : 1877], p. 60.
D48		juillet	1902	*nr W0086			<i>*Peinture sur la cheminée Portrait de M^{re} de Domecy Le Bien et Le Mal ?</i>	De M. Domecy pour peinture sur sa cheminée et solde du portrait au pastel des femmes. (LR(CD-ROM), p. 64)	500	Château de Domecy(?) et J. Paul Getty Museum.	
D49		octobre	1902	W2590	513		<i>Vierge d'aurore</i>	Réplique de la peinture <i>Vierge d'aurore</i> sur panneau bois [W 2590] A M. Domecy (LR(CD-ROM), p. 64)	300 CP		
D50		[oct.]	1902	*nr	514		<i>Pietà</i>	<i>Pietà</i> [sic.] (camayeu [sic.] rose) Christ affaissé [sic.] les yeux fermés. Une jeune femme yeux clos aussi, lui soutient un bras avec une expression dolente. Petite toile. De M. Domecy (LR(CD-ROM), p. 64)	200 li		
D51		[janv.]	1903	W0257	525		<i>Femme de profil</i>	Pastel. Une femme (visage bleu), de profil, tête penchée [W 257] De M. De Domecy (à compte [sic.]) (LR(CD-ROM), p. 66)	150 CP		
D52		avril	1903	—				De M. Domecy, solde (LR(CD-ROM), p. 66)	50		
D53		[nov.]	1903	W1957	537		<i>Barque</i>	<i>Barque</i> (pastel). Très sombre de fond, à peine y voit-on la voile, le mat, un panier de fleurs dans la barque aux pieds de 2 femmes dont l'une tient pensivement le gouvernail [W 1957] De Domecy (LR(CD-ROM), p. 68)	200	Hôtel Drouot, Paris 1 ^{er} juillet 1982, n° 20 (repr.).	
D54		[janv.]	1904	W1466	539		<i>Fleurs</i>	<i>Fleurs</i> (pastel) dans un vase bleu. Sur fond gris, fleurs quasi presque imaginaires, 2 marguerites jaunes au centre du sujet. [W 1466] De Domecy (LR(CD-ROM), p. 68)	200 CP		
D55		octobre	1904	W0347?	571		<i>Tête expressive</i>	<i>Tête expressive</i> , profil sur fond blanc comme d'une vision [W 347 ?] (LR(CD-ROM), p. 71)		CP	







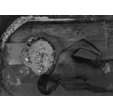
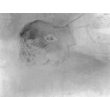
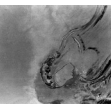

La Collection du Baron de Domecy

Le 17 Octobre 2018 Hiroo Yasui

n°	image	mois	année	n° de Wildenstein	n° du LR	n° du LR	titre	description dans LR etc.	somme	localisation actuelle	notes
D56		octobre	1904 ?		572		<i>Fleurs</i>	<i>Fleurs dans un vase noir</i> (LR(CD-ROM), p. 71)	↓ li		
D57		octobre	1904 ?		573			Pastel De M. de Domecy pour ces trois ouvrages (LR(CD-ROM), p. 71)	700 li		
D58		[déc.]	1904 ?				<i>Apocalypse</i>	<i>Apocalypse</i> album édité par Ambroise Vollard De M. Domecy (LR(CD-ROM), p. 72)	60 li		
D59		juin	1905	W0725	614	359	<i>Portrait de M^{re} Jeanne Roberte de Domecy</i>	Pour un portrait De M ^{re} de Domecy [W 725] (LR(CD-ROM), p. 73)	↑	*Heidi Horten Collection	Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, n°141, LR(CD-ROM), p. 73. Agnes Husslein-Arco et al., <i>Wow! The Heidi Horten Collection</i> , cat. exp., Vienne, Leopold Museum, 2018, pp. 435-437.
D60		[juin]	1905	W0336	615	360	<i>Pivot noir</i>	Un dessin (copie <i>Pivot noir</i>) [W 336] De M. Domecy (LR(CD-ROM), p. 73)	400	Christie's Amsterdam, 7 décembre 1994, n° 235, cat. p. 79 (repr.)	SALE 2011, p. 45 (celle [copie] de <i>Pivot noir</i> de Bongers [W 338]), LR(CD-ROM), p. 73.
D61		[juin]	1906	W1464?	668		<i>Fleurs</i>	Fastel [sic], fleurs sur papier gris de tapisserie [W 1464 ?] De M. de Domecy (LR(CD-ROM), p. 75)	200 CP		
D62		juillet	1906	*W1584	673		<i>Fleurs</i>	<i>Fleurs</i> (pastel) [W 1584 ?] De M ^{re} de Domecy (LR(CD-ROM), p. 75)	200	The Museum of Fine Arts, Gift.	
D63		28 octobre	1906	*W0440	680		<i>Ophélie</i>	Pastel (<i>Ophélie</i> entourée de fleurs et sombrant dans l'eau) [W 440 ?] (LR(CD-ROM), p. 75)	↓	CP	SALE 2011, p. 45, LR(CD-ROM), p. 75.
D64		[28 oct.]	1906 ?		681		<i>Fleurs</i>	<i>Fleurs</i> (pastel), vase bleu sur fond papier gris. Ces deux pièces de M. de Domecy (LR(CD-ROM), p. 75)	400 li		
D65		[déc.]	1906 ?		691	372		Dessin, un tréfle gothique et, derrière une grille, une tête penchée (LR(CD-ROM), p. 76)	↓	li	
D66		[déc.]	1906	W1132	692	374 [sic]		Dessin. Une sorte de femme regardant son ombre sur les eaux [W 1132]. Pour ces deux pièces M. Domecy (LR(CD-ROM), p. 76)	150	MoMA, Gift of The Ian Woodner Family Collection.	
D67		juillet	1907 ?		1013		<i>Fleurs</i>	De Domecy Fleurs au pastel, très soigné [W 2535] (LR(CD-ROM), p. 81)	500 li		*Le numéro de Wildenstein "2535" est pour le <i>Grand Bouquet</i> .
D68		[janv.]	1909 ?				<i>Une Tête</i>	De Domecy Pastel <i>Une Tête</i> (LR(CD-ROM), p. 83)	150 li		
D69		[juin]	1909	W1635			<i>Fleurs</i>	Pour une peinture de fleurs faite, à son désir, sur toile de 40, afin de m'entraîner [sic] à peindre sur plus grande surface. [W 1635] (LR(CD-ROM), p. 83)	1200 CP		Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, n°155, LR(CD-ROM), p. 83.
D70		31 [janv.]	1910 ?					A de Domecy Peinture. Une tête de jeune fille entourée de méandres ; elle est inclinée, le corsage est blanc. Une ligne verte enferme la bordure du côté droit. (sur papier) (LR(CD-ROM), p. 86)	200 li		


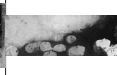




La Collection du Baron de Domecy

Le 17 Octobre 2018 Hiroo Yasui

n°	image	mois	année	n° de Wildenstein	n° du LR	n° du LR	titre	description dans LR etc.	somme	localisation actuelle	notes
D71		?	?				<i>Verge</i> (pastel)	[1891] Vierge (pastel) app. à M. de Domecy [W 472] (LR(CD-ROM) p. 51)			*LR(CD-ROM) p. 18 n°151 [W472] a été acquis par Volland en janvier 1894, mais LR(CD-ROM) p. 51 donne le même numéro de repertoire W472 à la variante de Domecy de 1891 ici D71, W nr. Voir LR(CD-ROM) p. 18 (1894 (...)) janvier (...) De M. Volland, (...) 2e à-compte [sic.] pour (...) une tête (peinture), elle est bleue, sur fond d'or, et est une variante de <i>Yaux-clos</i> [W 472 ; 1890] et p. 51.
D72				W0189			<i>Le Cèdre</i> (WILDENSTEIN t.I, n° 189)			MoMA, Gift of The Ian Woodner Family Collection.	LR(CD-ROM) p. 14 (14 mai 1891, 106-107, 83. De Dumont pour les deux dessins <i>Jeune fille</i> (sanguine) [W 422 ; 1895] et <i>Le Cèdre</i> [W 189] 125), p. 92 (83 <i>Le Cèdre</i> tête les mains jointes) *Le catalogue d'exposition en 1994-1995 p. 432 affirme que n°154 <i>La Prière</i> ou <i>Douleur</i> , <i>Désespérance</i> (ap. à M. Hayem) est W0189, ou D72 dans la présente liste. Une notice dans LR (CD-ROM) p. 49 identifie <i>Prière</i> ou <i>Douleur</i> , <i>Désespérance</i> à W0420. Mais il nous semble que c'est une erreur dans les deux cas.
D73				W0420			<i>La Souffrance</i> (Tokyo, Shizuoka, Gifu et Niigata, 2013, n°116)			CP	LR(CD-ROM), p. 7 (34-23 [28] <i>La Désespérance</i> [W 420 ; 1892] (...) à M. Ch. Hayem 300), p.49 (<i>La Prière</i> ou <i>Douleur</i> , <i>Désespérance</i> (ap. à M. Hayem) [W 420]), p. 90/23 <i>La Désespérance</i> (tête de femme vue de face, les mains crispées) [W 420]). *Il nous semble que c'est une erreur dans les trois cas. Voir notice par Aisuko Yamamoto, dans le catalogue de l'exposition, Tokyo, Shizuoka, Gifu et Niigata, 2013, n°116.
D74				W0423			<i>Profil de jeune fille</i> (WILDENSTEIN t.I, n° 423)			li	
D75				W0447			<i>Désespérance</i> , dit aussi <i>La Souffrance</i> (WILDENSTEIN t.I, n° 447)			MoMA, Gift of The Ian Woodner Family Collection.	
D76				W0727			<i>Profil gauche dans un encadrement floral</i> (WILDENSTEIN t.I, n° 727)			The Museum of Fine Arts, Gifu.	
D77				W0728			<i>Saint Jean-Baptiste, dit aussi la Tunique bleue</i> (WILDENSTEIN t.I, n° 728)			Sotheby's New York, 8 novembre 1995, n° 4 (repr.).	
D78				W0729			<i>Profil de jeune garçon</i> (WILDENSTEIN t.I, n° 729)			Christie's New York, 3 novembre 1993, n° 115 (repr.).	
D79				W0893			<i>Opélie</i> (WILDENSTEIN t.II, n° 893)			Charles E. Slatkin Galleries, New York.	
D80				W1150			<i>Fausse Gloire</i> (Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, n° 90)			CP	Chicago, Amsterdam et Londres, 1994-95, n° 90 (Le titre de l'œuvre provient d'une étiquette attachée sur le cadre lors de sa présence dans la collection Domecy). LR(CD-ROM), p. 83.

La Collection du Baron de Domecy

Le 17 Octobre 2018 Hiroo Yasui

n°	image	mois	année	n° de Wildenstein	n° du LR	n° du LR	titre	description dans LR etc.	somme	localisation actuelle	notes
D81				W2567			<i>Portrait d'un enfant</i> Domecy (WILDENSTEIN t.IV, n° 2567)			Jan Krugier, Genève.	
D82				W2568			<i>Onze personnages</i> (WILDENSTEIN t.IV, n° 2568)			CP	
D83				W2569			<i>La Coupe de devenir</i> (WILDENSTEIN t.IV, n° 2569)			CP	Chicago, Amsterdam et Londres 1994-95, n° 118.
D84				W2563			<i>Le Regard, profil d'homme</i> (WILDENSTEIN t.IV, n° 2586)			Musée des Beaux Arts, Rennes. Achat de 2004	
D85				W2635			<i>Les Boues ou dans la frange primitive ou dans les boues primordiales</i> (WILDENSTEIN t.IV, n° 2635)			Kunsthandel Sabine Helms, Munch	
D86				*nr			<i>Hommage à Gauguin</i> (Paris et Montpellier 2011, n° 122)			CP	

nr: non répertorié dans Wildenstein

[] notes par LR (CD-ROM)
[] et * : notes par Hiroo Yasui

li: localisation inconnue
CP: collection particulière

D'après Wildenstein 1992-98, catalogue de l'exposition Chicago, Amsterdam et Londres 1994-94 et Catalogue d'exposition Paris et Montpellier 2011